

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

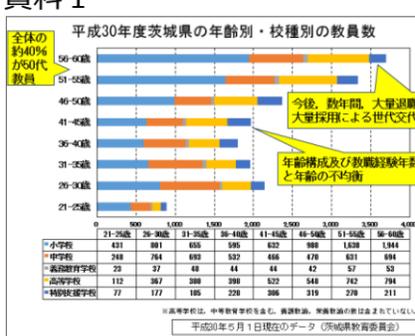
※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-99

校内研修プログラム開発・実践部門	茨城県教育研修センター 吾妻俊昭 令和元年度第 1 回学校組織マネジメント指導者養成研修
ベテラン教員の資質向上 指標に基づく研修プログラムの開発	
解決すべき課題 教職員の大量退職とそれともなう若手教員の採用の増加により、年齢構成及び教職経験年と年齢の不均衡が問題となっている。(資料 1) 教育公務員特例法等の一部を改正する法律により、教員がキャリアステージに応じて修得がもたえられる資質・能力を明確にした指標の策定と、それに基づく教員研修計画の構築が求められた。これらのことから、解決すべき課題を学校で中核となるリーダーの育成とし、第 4 期(貢献・深化期)においてベテラン教員の資質・能力を明確にした指標を作成した。(資料 2)	
目標・方針 中堅教諭等資質向上研修後の研修リーダーの育成(若手・中堅教員への指導・助言ができる資質・能力の向上)と、そのリーダーによる校内研修の場を設定し、実施、評価することで校内研修の充実を図る。(資料 3)	
活動内容 ・集合研修(本研修センターで 2 日間実施)では、第 1 日に、講義「これからの学校に求められるベテラン教員の役割」、講義・演習「これからの時代に求められる資質・能力を育成する学習指導」、講義・演習「カリキュラム・マネジメントの推進」を実施する。第 2 日に、講義「教職員の信用失墜行為の事例」、講義・演習「教職員の生活設計」、講義・演習「学校の危機管理」を実施する。 ・校内研修では、集合研修で学んだ研修の進め方を基に、PDCA サイクルで校内研修の企画・運営を行う。研修を行う留意点として、NITS の動画「校内研修シリーズ」を活用したり、取組の視点を確認したりしながら校内研修を推進する。 ・研修評価では、校内研修の成果と課題を振り返る。フォーマットを基に、A4 版 1 枚で校内研修報告書を作成する(資料 4)	
活動の成果 ・集合研修では PDCA の進め方や外部資源の活用などを理解して校内研修に生かすことができた。また、公認会計士による生涯賃金等の講義を通して自らのライフプランについて考えることができた。(資料 5) ・校内研修では NITS の動画「校内研修シリーズ」を活用することで、短時間で内容の濃い研修にすることができた。(資料 6) 受講者は校内研修を企画・運営することで学校運営への参画意識を高めることができた。 ・研修評価では成果と課題を個人で振り返るだけでなく学校全体で共有できた。次年度に向け新たな課題解決を図る計画につなげることができた。また、汎用性の高い実践例をホームページで発信した。(資料 7) ・受講者の感想からは学校運営への参画意識の向上やマネジメント力を身に付ける必要性についての感想が多く見られたことから、学校の中核となるリーダーとしての自覚と使命をもつことができた。(資料 8)	
アピールポイント(アイディアや工夫) ・受講者 492 人の校内研修報告書のデータを蓄積し、他校でも取り組めるような汎用性の高い校内研修をホームページで発信して、今後の校内研修の推進につなげる。 ・研修効果を上げるために、定年退職から逆算して残り 15 年間を勤め上げる「満 45 歳」の悉皆研修とした。 ・受講者のライフプランへの意識を高めるとともに、信用失墜行為が本人や家族に及ぼす影響を生涯賃金のシミュレーションを通して考え、コンプライアンス意識の向上を図った。	

資料 1



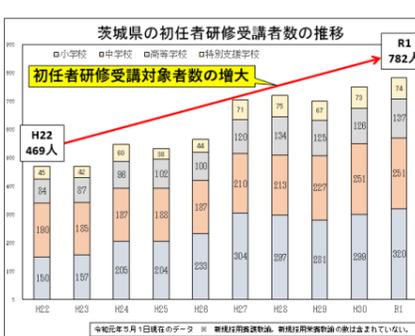
全体の約40%が60代教員

今後、数年間、大量退職・大量採用による世代交代

年齢構成及び教職経験年数と年齢の不均衡

年齢	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
21-29歳	431	881	655	595
30-39歳	268	784	692	532
40-49歳	29	27	48	14
50-59歳	112	382	388	322
60-69歳	77	177	185	228
70歳以上				319

資料 2



初任者研修受講対象者数の増大

H22 469人

R1 782人

資料 3



ベテラン教員研修
小学校、中学校、高等学校、特別支援学校(教諭・栄養教諭・養護教諭)

「学び続ける教員」
茨城県教育研修センター

指標に基づく研修プログラム

第1期(形成期) 1~5年	第2期(成長期) 6~11年	第3期(発展・充実期) 12~23年	第4期(貢献・深化期) 24年~
授業力・児童生徒理解の向上	教職・教科専門性の向上	校務分掌等の企画調整及び若手教員への指導・助言	学校運営及び若手・中堅教員への指導・助言
若手教員研修 初任者研修 2年次研修 3年次研修 新採研修	中堅教諭(前期) 資質向上研修	中堅教諭(後期) 資質向上研修	ベテラン教員研修

ベテラン教員研修の目標
学校運営に参画し、若手・中堅教員への指導・助言ができる教員を目指す。

目標を達成するための手立て

集合研修 → 校内研修 → 研修評価

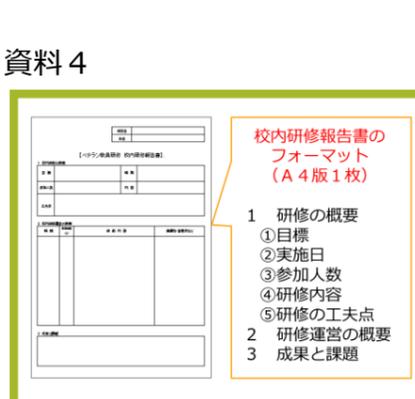
実践に対しての評価(校内研修報告書の作成)

指導体制の改善を図ることができたか。
若手・中堅教員への指導・助言ができたか。
2月中旬

次年度に向けた計画

新たな課題を解決するための計画を立てる。

資料 4



校内研修報告書のフォーマット(A4版1枚)

- 研修の概要
 - ① 目標
 - ② 実施日
 - ③ 参加人数
 - ④ 研修内容
 - ⑤ 研修の工夫点
- 研修運営の概要
- 成果と課題

資料 5

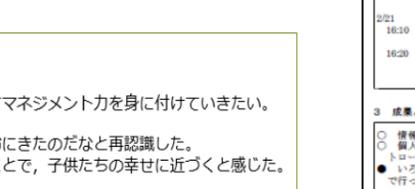


コンプライアンス違反の影響

資料 6



資料 7



【ベテラン教員研修 潮来市立証方小学校 校内研修報告書】

項目	内容	時間
1 校内研修の概要	学校生活における具体的な場面などが危険が潜み、事故を未然に防ぐための具体策を考え、今後の指導に生かすことができる。	2月7日(木) 16:10~16:30 2月21日(木) 16:10~16:30
2 校内研修運営の概要	1 協議は、短時間で効果的な話し合いができるように、2回に分けて行い、個人での意見の指導の振り返りや考案の時間を十分に取ってから、グループ協議に参加できるようにした。 2 話し合いの深まりと意思への指導を促進するために、グループ協議に参加できるように、グループを年齢年数の異なるブロックとした。	1 伝達講習 「学校の新たなリスクについて」 2 協議「学校のリスクマネジメント」 (1) 個人検討 (2) グループ

資料 8

受講者の感想から

- ・学校の中で担う役割について改めて考えることができた。
- ・学校の課題を見つけ、課題解決するために学校組織を動かすマネジメント力を身に付けていきたい。
- ・コンプライアンス違反が収入に与える影響を認識できた。
- ・学校組織というものを大きな視点で見たり考えたりする年齢にきたのだと再認識した。
- ・学校全体が一つになって力を合わせて学校運営に参画することで、子供たちの幸せに近づくと感じた。